

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 炊飯器に取り付けられてしゃもじを保持するしゃもじホルダーであって、

前記炊飯器としては、その本体部の上部の外周縁部において環状の堤状に上方へ突出して、蓋部を開いた際にその蓋部の内側部分に付着していた水滴を受ける水滴受け部を形成する上方突出部を有するものに取り付けられるものであり、

前記炊飯器の外側に位置づけられ、しゃもじの本体部を収容する貯水可能な器状をなすしゃもじ収容体と、

そのしゃもじ収容体に設けられ、前記炊飯器の蓋部を閉じた状態のその炊飯器の前記本体部と前記蓋部との間の隙間を通して、前記炊飯器の前記上方突出部に係合する係合部材とを有することを特徴とするしゃもじホルダー。

【請求項2】 請求項1に記載のしゃもじホルダーであって、前記しゃもじ収容体が、人間の手が十分に入る程度の大きさであることを特徴とするしゃもじホルダー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、炊飯器に取り付けられてしゃもじを保持するしゃもじホルダーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、しゃもじホルダーとしては、しゃもじの本体部を収容するしゃもじ収容体を有し、炊飯器の外側の部分に特別に形成された被係合部に係合されて取り付けられるものがある。また、磁石で炊飯器の外側の部分に付着されるものもある。そして、そのしゃもじ収容体の底部には、複数個の水抜き用の孔が設けられている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、しゃもじの使用後には、通常、そのしゃもじの本体部にご飯粒等が付着する。そして、それが所定時間経過後には硬化してきて、次に使用しようとする際の不都合となる。

【0004】また、上記従来のしゃもじホルダーのしゃもじ収容体は、ちょうどしゃもじの本体部が入る程度に間口しかなく、その内側を手で洗おうとする際に不都合である。

【0005】また、上記のしゃもじホルダーでは、上述のように炊飯器の外側に特別に形成された被係合部に係合されて取り付けられるものであるために、汎用性がなく、そのしゃもじホルダーが壊れたり紛失した場合には、不便である。また、磁石で炊飯器に付着されるものの場合では、使用中にその位置がずれてくることが多くて不便である。また、合成樹脂からなる外側面を有する炊飯器には取り付けられない。

【0006】そこで、本発明は、上記従来のしゃもじホルダーの不都合を一挙に解決したしゃもじホルダーを提

2

供することを課題とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するために、請求項1に係る発明のしゃもじホルダーは、炊飯器に取り付けられてしゃもじを保持するしゃもじホルダーであって、前記炊飯器としては、その本体部の上部の外周縁部において環状の堤状に上方へ突出して、蓋部を開いた際にその蓋部の内側部分に付着していた水滴を受ける水滴受け部を形成する上方突出部を有するものに取り付けられるものであり、前記炊飯器の外側に位置づけられ、しゃもじの本体部を収容する貯水可能な器状をなすしゃもじ収容体と、そのしゃもじ収容体に設けられ、前記炊飯器の蓋部を閉じた状態のその炊飯器の前記本体部と前記蓋部との間の隙間を通して、前記炊飯器の前記上方突出部に係合する係合部材とを有することを特徴とする。なお、しゃもじの「本体部」とは、「柄」ではなく、実際にご飯をすくう部分をいうこととする。

【0008】また、請求項2に係る発明は、請求項1に係る発明のしゃもじホルダーであって、前記しゃもじ収容体が、人間の手が十分に入る程度の大きさであることを特徴とする。

【0009】

【作用・効果】この発明（請求項1及び請求項2）に係るしゃもじホルダーは、炊飯器の上方突出部に対して係合部材が係合されることによって、炊飯器に対して取り付けられる。その状態で炊飯器の蓋部の開閉が担保される。

【0010】そして、しゃもじ収容体の内部に水を入れた状態で、そのしゃもじ収容体の中にしゃもじの本体部を入れて使用する。このため、しゃもじの本体部に付着していたご飯粒が取れるとともに、しゃもじを使用する際にはその本体部が水で濡れているために、ご飯粒が付着しにくい状態が保たれることになる。

【0011】また、この発明は、一般的に炊飯器に存在する水滴受け部のための上方突出部と、炊飯器の本体部と蓋部との間に存在する微小な隙間を利用するものであり、汎用性に富んだものとなる。

【0012】また、請求項2の発明では、そのしゃもじ収容体では、その大きさが、内側を洗うのに十分なほどに人間の手が入る程度の大きさを有しているため、洗う際に便利である。

【0013】

【実施例】次に、本発明の一実施例を図面に基づいて説明する。まず、このしゃもじホルダー10が好適に使用される炊飯器RCについて説明する。炊飯器RCは、本体部50と、本体部50に対して開閉可能に設けられる蓋部52とを有している。そして、本体部50の内側には、釜部58が収容されている。また、本体部50の上部の外周縁部には、環状の堤状に上方へ突出する上方突出部56が形成されており、その上方突出部56と釜部

3

58との間の環状の部分は、蓋部52の内側部分に付着していた水滴を受ける水滴受け部54とされている。また、蓋部52を閉じた場合には、蓋部52と本体部50との間に微小な隙間Cが生じている。

【0014】しゃもじホルダー10は、しゃもじ収容体20と、係合部材30とを有している。しゃもじ収容体20は、ほぼ直方体状の器状をしており、底部には孔も設けられておらず貯水可能なものである。上部には開口部22が形成されている。しゃもじ収容体20は、その内側を洗うのに十分なほどに人間の手が入る程度の大きさを有している。

【0015】しゃもじ収容体20の裏側のやや上部には、磁石24が設けられている。また、しゃもじ収容体20の裏側の下側には、炊飯器RCの外側面に対応する凹部を有する当接部26が形成されている。

【0016】係合部材30は、しゃもじ収容体20の上部に設けられている。係合部材30は金属からなり、下方から上方へ向けて被取付部32、本体部34、挿入部36が形成されている。被取付部32においては、2つのボルト33でしゃもじ収容体20に対して固定されている。本体部34は、斜め上方へ延びている。挿入部36は、本体部34からほぼ水平に折り曲げられて形成されている。挿入部36の先端部は下方へ折り曲げられており、係合端部38が形成されている。なお、係合端部38の基部（折曲部分）には、孔部39が形成されており、その折り曲げがしやすいようにされている。

【0017】係合部材30（挿入部36）の厚さTは、前述した炊飯器RC（蓋部52を閉じた状態）の本体部50と蓋部52との間の微小な隙間Cよりも薄い（ほぼ同一）ものとされている。また、係合端部38の高さ（上記厚さTを除く）hは、前述した炊飯器RCの上方突出部56の高さHよりも低いものとされている。

【0018】次に、このしゃもじホルダー10の使用方法及び作用効果について説明する。このしゃもじホルダー10は、炊飯器RCの蓋部52を開いた状態で、係合端部38においてその上方突出部56に係合させて取り付け。すると、蓋部52を閉じようとしても、円滑に蓋部52を閉じることができる。すなわち、このしゃもじホルダー10の取付状態で蓋部52は開閉可能なのである。また、その際、炊飯器RCの外側部が金属からな

4

る場合は、磁石24でも付着される。また、当接部26は、炊飯器RCの外側部に沿って当接させた状態とする。そして、しゃもじホルダー10のしゃもじ収容体20の内部には、水Wを7、8分入れておく。

【0019】その状態で、しゃもじS（本体部M）をしゃもじ収容体20の内側に収容して使用する。すると、しゃもじSの本体部Mは、常に水に浸されていることとなり、1度ご飯をすくうのに用いてその表面にご飯粒等が付着しても、水に浸されているうちにそれが取れて、再度使用しようとする際にも不都合がない。また、その後の使用の際にも、しゃもじSの本体部Mがすでに水で濡れているから、ご飯粒等が付着しにくい状態に保たれることになる。

【0020】また、このしゃもじホルダー10のしゃもじ収容体20は、その内側を洗うのに十分なほどに人間の手が入る程度の大きさを有しているため、洗う際に便利である。

【0021】また、このしゃもじホルダー10は、一般的に炊飯器に存在する水滴受け部54のための上方突出部56と、炊飯器の本体部50と蓋部52との間に存在する微小な隙間Cを利用するものであり、汎用性に富んだものとなる。

【0022】なお、上記しゃもじホルダー10はあくまで実施例であり、当業者の知識に基づき種々の変更を加えた態様で本発明を実施できることはもちろんである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す斜視図である。

【図2】その取付状態を示す断面図である。

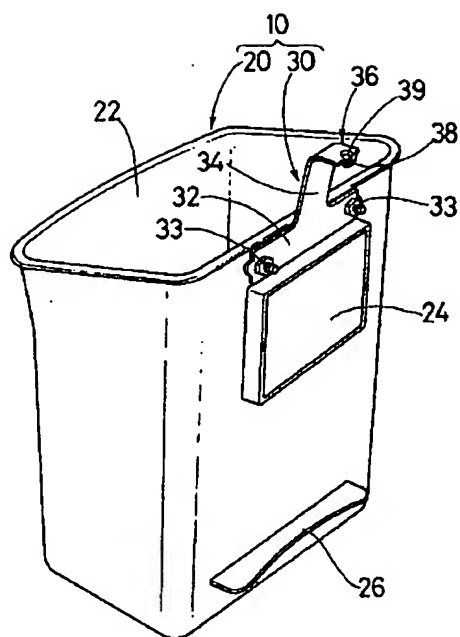
【図3】同じくその取付状態を示す斜視図であり、炊飯器の蓋部を閉じた状態を示す図である。

【図4】同じくその取付状態を示す斜視図であり、炊飯器の蓋部を開いた状態を示す図である。

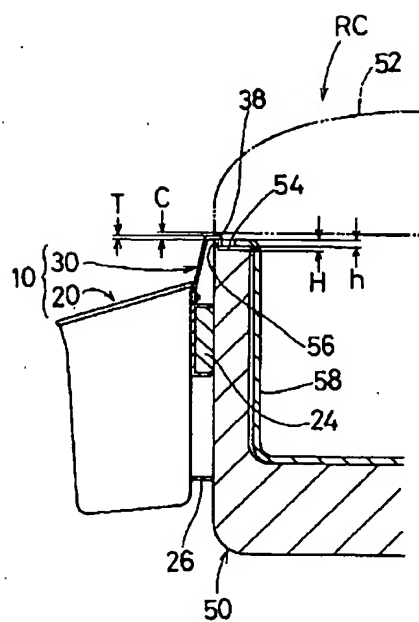
【符号の説明】

10 しゃもじホルダー
20 しゃもじ収容体
30 係合部材
RC 炊飯器
50 上方突出部
C 隙間

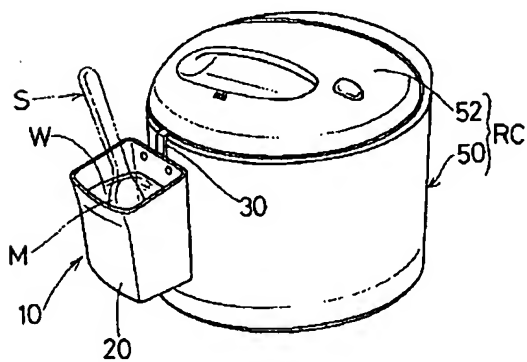
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

